No. 29

まいぶんえひめ

平成14年12月(2002)

編集・発行
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
本　　部　〒790-8570
松山市一番町4丁目4-2
TEL089(941)5645
FAX089(931)8302
湯築城資料館　〒790-0857
松山市道後公園
TEL089(941)1480
FAX089(941)1481
重信整理事務所　〒791-0212
温泉郡重信町田窪字井口36-8
TEL089(964)8438
FAX089(964)8452
http://pc2.ehimemaibun-unet.ocn.ne.jp
製版・印刷　岡田印刷株式会社

えひめ弥生土器文様素描

弥生土器の文様は私たちに何を語りかけているのでしょうか‥‥

私たちが博物館や遺跡で見かける土器には様々な「文様（もんよう）」が施されています。現代社会である私たちの生活の中にも「文様」はあふれています。普段聞き慣れた「文様」は、いったい何を表しているのでしょうか?

「文様」という言葉の意味には、『広辞苑』によると「紋（もん）のありさま。模様（もよう）」とあります。「紋」は織物の表面に織り出された模様であり、「模様」とは装飾に施す種々のかたちの意味をもっています。つまり「文様」とは、絵画や彫刻のような個人が創り出した独創性の高いものとは異なり、私たちが普段着ている服に見られるチェックや水玉のように、かたちや線、色と言ったものをバランスやリズムでとらえて、見た目の美しさ、華やかさを表すために施される装飾効果の意味をもっているのです。言いかえれば「文様」はそれが施された当時の流行であり、社会の状況や人々の考え方が無意識に表れたものと言えそうです。文字を持たない時代であれば、「文様」が間接的にその時代の社会を物語っているものと言っても過言ではないと思います。

今回は愛媛県内から出土した今から約二千三百年前の紀元前3世紀から紀元後3世紀の約600年間にわたって作られ続けてきた弥生土器の文様を見ていくことにしましょう。

そこには遙か昔、愛媛の地にいたであろう弥生人の息吹を感じ取ることができそうです。

土器に残された匠の技

土器には文様以外にも人の手によって付けられた様々な痕跡があります。特によく見られるのは土器を作るときの技法(整形調整技法)によって刻まれた痕跡です。ここではまず文様と区別するためにその痕跡を技法ごとに見ていくことにしましょう。

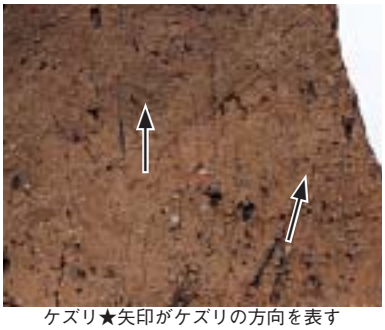
【タタキ(叩き)】

土器の製作に外面を叩く板（タタキ板）と内面を支える当て具を用い、叩くことで土器の形を整える技法をタタキ技法と呼びます。土器の表面にはタタキ板に彫り込まれた溝の跡が残ります。

タタキ

【ケズリ】

土器表面の粘土をヘラ状工具などで削り取ることによって、土器の形を整えたり、粘土の厚さを調整したりする技法をケズリ（あるいはヘラケズリ）技法と呼びます。土器の表面には、削る際に生じた小石の移動が痕跡として残ります。



ケズリ★矢印がケズリの方向を表す

【ハケメ(刷毛目)】

かまぼこ板のような板片を使用し、整形が終わった土器の表面をなでて形を調整する技法です。板片の短い面(木口)でなでた時に木目の凹凸によって数条の平行な線が土器の表面に残ります。

ハケメ

【ナデ・ヨコナデ】

指や布・皮・繊維束などを用い、土器の表面をなでて平滑にする技法で非常に微細な条痕が残ります。ヨコナデは、ナデの方向が水平なものを言います。

ヨコナデ

【オサエ】

特に道具は必要とせず、手、主に指を用いて土器を押さえて形を整える技法です。オサエは、土器の製作工程の各段階で行われています。土器表面に押さえた跡がくぼみとして残ります。

指オサエ

【ミガキ（ヘラミガキ）】

土器の表面を石ころや骨・竹など平らでなめらかな道具を用いて平滑に磨き上げる技法です。これによって土器表面付近の砂粒は沈められ、きめ細かい面に仕上げることができます。この技法は、土器製作の一番最後に用いられることが多いようです。弥生土器ではヘラ状工具の使用を考えてヘラミガキと呼んでいます。

ヘラミガキ

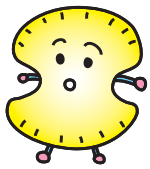
【条痕（貝殻条痕）】

主としてサルボウ、アカガイなどギザギザのある貝殻の縁を使って土器の表面を掻いて形を整える技法です。ケズリとハケに似た技法で主に縄文土器に使用されましたが、愛媛県南部（南予地方）の弥生土器にもこの技法が使われています。

★ちょっと一言

ヘラミガキは文様!?

ミガキは磨き上げる技法であることから土器を美しく見せようとする意識が働き、装飾効果の役割をもはたしています。文様効果の強いミガキを文様の一種として「暗文」という文様名で呼びます。



ふんどうくん

弥生土器の文様

次に、愛媛県内から出土した弥生土器の代表的な文様について見ていくことにしましょう。

弥生土器にはたくさんの文様がありますが、文様を施す道具に由来する名前と文様の形状に由来する名前の２つに大きく分けることができます。

文様を施す道具に由来する名前には篦描文・櫛描文があり、文様の形状に由来する名前には凹線文・貼付文・刺突文・透孔・直線文・波状文・斜線文・斜格子文・綾杉文・山形文・鋸歯文・渦巻文・蕨手文・双頭渦文などがあります。

●名前が文様を施す道具に由来する文様

【篦描文】

篦状工具を用いて描かれた文様の総称です。

篦状工具そのものについては、あまり研究が進んでいません。おそらく先端を数ミリの幅に削った木・竹・骨などがその主な工具と考えられます。また高杯脚部に施された沈線（溝のこと）は針のような尖った金属の工具を使った可能性も考えられています。

篦描文

【櫛描文(くしがきもん)】

先端が３本以上に分かれた櫛状の工具を用いて描かれた文様の総称です。櫛描文は中期前半（紀元前2世紀後半ころ）の弥生土器に施される代表的な文様です。土器の表面には規則正しく平行に走る3本以上の沈線として確認することができます。この文様が出現した前期末から中期初頭の愛媛県では、平行に走る櫛描文の溝が土器に含まれている小石などの障害物で微妙にずれて平行にならないことがあり、ヘラを何本か手あるいはひもで軽く束ねただけの櫛状工具も使われていたと考えられます。私たちはこれを「ヘラ束櫛状工具(へらつかくしじょうこうぐ)」と呼んでいます。

様々な櫛描文

●名前が形状に由来する文様

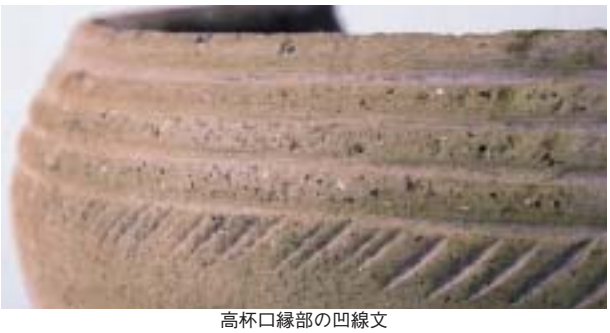
名前が形状に由来する文様も大きくは2つに分けることができます。一つはその**形状が技法に関連している文様**です。もう一つは**見た目の形状のみに由来する文様**です。後者は先ほど説明した文様を施す道具に由来する文様の名前と組み合わせることで一つの文様となります。

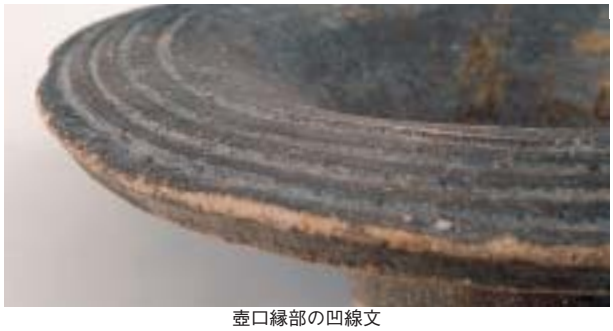
■形状が技法に関連している文様

【凹線文(おうせんもん)】

ヨコナデ技法の発達に伴って生まれた文様で布・皮などを折り曲げてそれを回転している土器の表面に当てることによって描かれた複数の直線文を凹線文と呼び、その断面形状はトタン波板状（「〜〜」状）になります。凹線文は中期後半(紀元前1世紀後半ころ)の弥生土器に施される代表的な文様です。

高杯脚部の凹線文


高杯口縁部の凹線文


壺口縁部の凹線文

【貼付文(はりつけもん)】

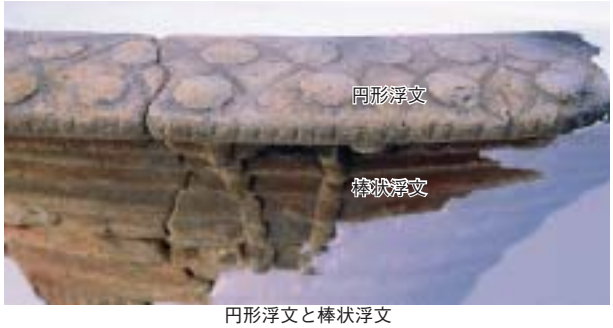
粘土を土器の表面に貼り付けることで装飾効果を高めている文様の総称です。代表的なものに貼付突帯文・棒状浮文・円形浮文などがあります。

貼付突帯文(はりつけとったいもん)：器面に全周するように帯状の粘土紐を貼り付けた文様です。突帯文の上には刻目や布目を押しつけた圧痕文(あっこんもん)を列点文として施すことが多いようです。

貼付突帯文

棒状浮文：短い棒状の粘土紐を主にタテ方向に貼り付けた文様です。

円形浮文：円形の偏平な粘土の固まりを貼り付けた文様です。



円形浮文と棒状浮文

【透孔】

高杯や台付鉢などの脚部や台部に三角形・長方形・円形などの孔を施す文様です。愛媛県の東・中予地域では独特の「矢羽根形透孔」を施すものが圧倒的に多いようです。また矢羽根形透孔には孔を貫通させているものが少ないことから、透かしを目的として施文するのではなく、矢羽根の形のみを意識しているようです。

矢羽根形透孔

円形透孔

方形透孔

三角形透孔

【刺突文・圧痕文・刺突（圧痕）列点文】

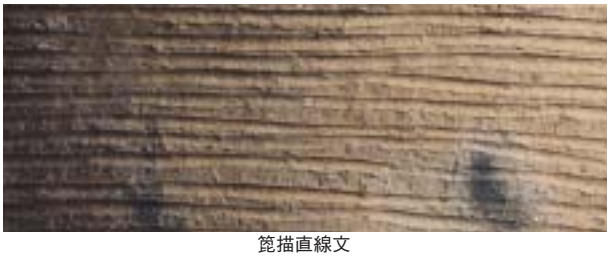
竹管・半截竹管（竹をタテに割ったもの）・ヘラ・櫛・貝殺などの先端を刺突する文様を**刺突文**、布目などを押し当てたものを**圧痕文**と呼びます。刺突を連続させる文様を**刺突（圧痕）列点文**と呼びます。

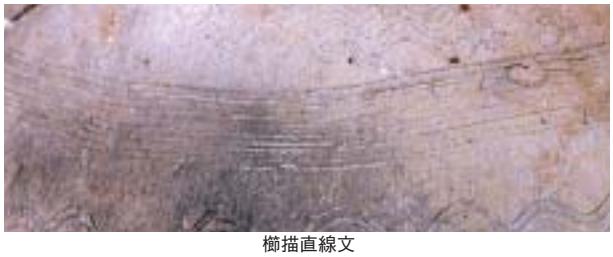
櫛状工具による刺突列点文

■見た目の形状のみに由来する文様

【直線文】

直線に引く沈線の総称で、一般的には水平に施された直線を指します。これがヘラで施されていると**篦描直線文**となり、櫛で施されると**櫛描直線文**となります。


篦描直線文


櫛描直線文

【波状文】

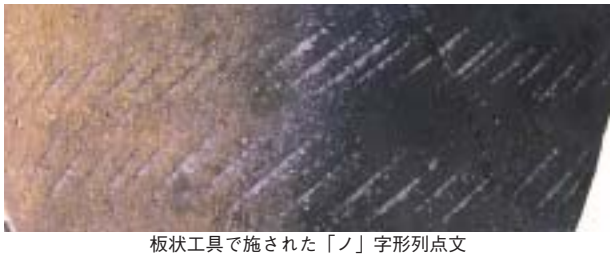
水平に移動する文様が上下にうねり、波状になる文様です。櫛で施されたものが最も多く、ヘラや半截竹管で施されたものもあります。

櫛描波状文

櫛描波状文

【斜線文】

斜め方向の短い沈線または圧痕のことで、県内では左下がりが多く、「ノ」字形という言葉で呼ばれています。特に列点文によく見られる文様形状で「ノ」字形列点文と呼ばれています。


板状工具で施された「ノ」字形列点文

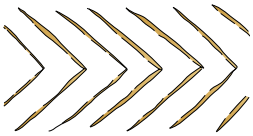
【斜格子文】

左下がりと右下がりの斜線が斜格子状に組み合わされた文様で、ヘラや櫛、半截竹管で施されたものが多いです。

半截竹管による斜格子文↑

【綾杉文】

相対する斜線文が上下に配置され形状が綾杉状になる文様です。ヘラや半截竹管で施されたものが多いです。



【山形文】

形状が上方が頂点になる三角形の文様で、ある一定の間隔で施されています。ヘラで施されるものが多いです。

篦描による鋸歯文

【鋸歯文】

山形文が連続して施された文様を指し、その状態がノコギリの歯に似ていることに名前の由来があります。

【渦巻文・蕨手文・双頭渦文】

渦巻文は字の如く形状が渦巻状になる文様で貼付突帯文によるものが多いです。壺の口縁部内面に施されることが多く、前期末から中期前半の土器によく見られます。

蕨手文は蕨の形状に似た渦巻状の文様です。渦巻文同様、壺の口縁部内面に施されることが多く、前期末から中期前半の土器によく見られます。

双頭渦文は1本の貼付突帯文で作られた隣接する2つの渦巻文で構成される文様です。後期後半の土器にまれに見られます。

双頭渦文

貼付突帯による渦巻文

貼付突帯による蕨手文

発掘調査情報

出土した弥生土器

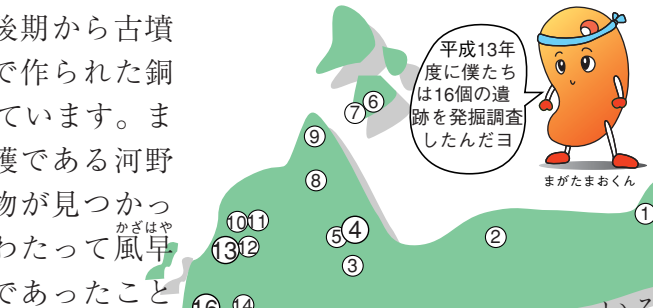
カマド付竪穴住居

大相院遺跡⑬

弥生時代前期末から中世にかけての遺構・遺物が見つかった複合遺跡です。弥生時代後期から古墳時代初めころの中国で作られた銅鏡の破片が2枚出土しています。また中世では伊予の守護である河野氏ゆかりの遺構・遺物が見つかっています。各時代にわたって風早平野の中心的な遺跡であったことがわかりました。

長網Ⅰ・Ⅱ遺跡④

過去3年間の調査で古墳時代後期の竪穴住居跡がカマド付きの住居を中心に27棟も見つかりました。また同じころの掘立柱建物跡も見つかっていることから古墳時代の集落の様子が徐々にわかってきました。



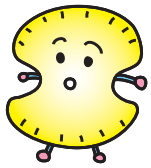
南江戸鬮目遺跡2次調査⑯

中世･鎌倉時代の集落遺跡で2000口以上の柱穴が見つかっています。とくに注目できるのは輸入陶磁器の質と量です。出土量は県内で見つかった同時期の遺跡の中でも最多になります。これら陶磁器には当時珍しく貴重であった水注や四耳壺などが含まれていることから普通の農村ではなく、有力者の集落であったと考えられます。

平成13年度に発掘した遺跡

番号	遺　跡　名	所　在　地	時　　期
①	土居山遺跡	川之江市妻鳥町字麓	弥生時代後期～古墳時代後期
②	星原市遺跡	新居浜市星原町	中世
③	願連寺遺跡B調査区	周桑郡丹原町願連寺	中世
④	長網Ⅰ・Ⅱ遺跡	東予市実報寺	縄文時代後期～中世
⑤	高志田遺跡	東予市実報寺	縄文時代後期～中世
⑥	永地遺跡	越智郡吉海町名	縄文時代後期～中世
⑦	名駒14号墳	越智郡吉海町名駒	古墳時代
⑧	浅川矢田遺跡(浅川改修地区)	今治市矢田	弥生時代～中世
⑨	杣田遺跡3次調査	今治市杣田	弥生時代終末～中世
⑩	中尾山遺跡1次調査	北条市上難波字中尾山	弥生時代中期末～古代
⑪	中尾山遺跡2次調査	北条市上難波字中尾山	弥生時代中期末～古墳時代
⑫	別府遺跡	北条市常保免・別府	古代～中世
⑬	大相院遺跡	北条市善応寺	弥生時代前期末～中世
⑭	道後今市遺跡13次調査	松山市道後北代	縄文時代後期～中世
⑮	南斎院土居北遺跡2次調査	松山市南斎院町	中世
⑯	南江戸鬮目遺跡2次調査	松山市南江戸	中世

捨てられたたくさんの土師器

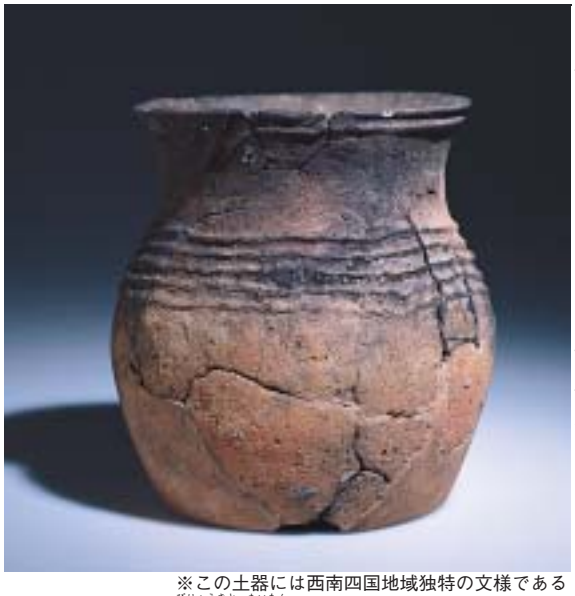


答え
①円形浮文
②貼付突帯文
③斜格子文（半截竹管による）
④櫛描波状文
⑤刺突列点文

出土遺物情報

道後町遺跡

松山市内の道後町遺跡で見つかった袋状土坑から愛媛県南部・南予地域の弥生土器である「西南四国型土器」が出土しました。弥生時代前期末に南予との交流があったことが考えられます。



出土した西南四国型土器

※この土器には西南四国地域独特の文様である微隆起突帯文が施されています。

南斎院土居北遺跡2次調査

中世の屋敷地を囲んでいる溝の外で見つかったお墓から、人骨といっしょに墨で「二」の文字が書かれた土師器が多数出土しました。周辺からも墨書土器が見つかっています。こうした文字が書かれた出土遺物は当時の生活や埋葬の仕方を知る手がかりになります。

出土した墨書土器

大相院遺跡

弥生時代後期から古墳時代初めころの遺構から青銅の鏡の破片が2面出土しました。1面は中国の前漢（BC202年～AD8年）で作られた重圏文系小形前漢鏡で割れた鏡を研磨して使っていたことがわかりました。もう1面は中国の三国時代の魏（AD202～265年）で作られた斜縁鏡です。これらが出土したことからこの遺跡には有力者がいたことが考えられます。

斜縁鏡

この文様は何かな？

特集をよく読んで下の土器の文様名を答えてください。
この弥生土器の写真は弥生時代中期中ころ（紀元前1世紀ころ）に作られた広口壺の口縁部内側に施された文様群を真上から撮ったものです。
君はいくつ分かるかな。

答えは7頁の右下にあるよ。

編集後記

今回は「文様」をテーマに取り上げ、愛媛県出土弥生土器を観察する時に役立つような図鑑的要素を持った特集を組んでみました。一人でも多くの人がこれを片手に遺跡や博物館を探索してくれることを切に望みます。なお特集で掲載した写真の土器は下記の遺跡から出土したものを使用しました。（しばしょう）

東予市久枝Ⅱ遺跡・今治市阿方遺跡・阿方中屋遺跡・矢田遺跡・松山市平田七反地遺跡・祝谷遺跡群・宮前川北斎院遺跡